

## 答 辞

春の陽気が感じられるこの佳き日、1993名はこの法田中学校を卒業します。

3年前、大きな制服の袖に腕を通したは、これからの生活に緊張と不安を感じるとともに、新しい出会いに胸を高鳴らせながら法田中学校の門をくぐりました。入学式で見た先輩方は堂々としていて、尊敬の念を抱きました。学校行事や委員会活動、部活動で困ったり悩んだりした時には、先輩方にとっても助けていただきました。

2年生になると、新たに入ってきた後輩を助ける側になりました。初めて背負う先輩としての責任。少しずつ成長する年となりました。

「最高学年3年生」。その言葉には、2年生で感じた責任とは比にならない重みを感じました。学校の顔となった私達は、後輩に良い先輩としての行動を見せられるように、精一杯頑張りました。更に、この年はすべてのことに「最後」という言葉がつく年でした。

修学旅行では、宮城県、岩手県を訪れ、震災学習をおこない、世界遺産に触れ、たくさんのことを学びました。なかでも震災学習では、伝承館に残されている当時の災害によって損傷を受けた校舎や、流されてきた瓦礫を目の当たりにして、自然災害がもたらす脅威を実感しました。そして震災当時、気仙沼市立階上中学校の卒業生であった梶原優太さんの答辞を聞き、「命の重さを知るには大きすぎる代償であった。」という言葉や、『あたりまえ』に思える日々や友達が、いかに貴重なものかを考え、いとおしんで過ごしてください。」という言葉に考えさせられました。この他にも、部屋やバスで過ごす時間も友達と話したり、ゲームしたりと色濃く残る記憶ばかりです。

体育祭では、各クラスが仲間とともに一生懸命力を合わせました。今年は学級リレーもあり、今まで以上にクラスの個性がでてとても楽しかったです。すべてのクラスが「勝利」に向かって全力を出し涙する人もいました。

最後の学校行事である合唱祭。各クラス体育祭に負けぬ熱量でたくさん練習しました。そんな合唱祭で私が一番心に残っていることは、3年生全員で「リフレイン」を歌ったことです。リフレインにはこんな歌詞があります。「明くる日も明くる日もどれだつて一つきり何度でも繰り返す この今は一度だけ」。人生で今日という日は一度だけ。仲間と過ごすこの日々は永遠には続かないことを痛感し、残りの中学校で過ごす日々を大切にしていきたいと心から思いました。

あつという間に時間は過ぎ、中学校の門をくぐるのも今日が最後になりました。一緒に3年間学んできた、卒業生のみんな、みんなと過ごした3年生は本当に楽しかったし、たくさん思い出があります。本当にありがとうございます。

今日この日を迎えられたのは、お母さん、お父さん、先生方のおかげです。人生最初の分岐点である高校進学。初めて自分の人生を選択することに戸惑って、たくさん悩みました。お母さん、お父さんとたくさん話し合って、時には衝突もしました。素直になれず衝突の余

韻が残ったこともありました。そんなの話に耳を傾けてくれたり、新しい選択肢を探してくれたり、最後までサポートしてくれてありがとう。また、15年間私達を育ててくれて、たくさんの話を聞いてくれて本当にありがとう。まだまだ未熟で、これからもきつと相談したり、頼ることもあると思うけど、これからもよろしくお願いします。

先生方、進路だけでなく中学校生活を支えてくださりありがとうございました。この3年間では勉強だけでなく、委員会や係活動、部活動を通して、人として大切なことをたくさん教えていただきました。先生方、とくに厳しく注意したり、ときに優しく相談にのってくださいたりと、私達の学校生活をサポートしていただき、本当にありがとうございました。

最後になりましたが、私達卒業生がそれぞれの未来に向かって歩んでいくことを誓うとともに、法田中学校のますますのご発展と、先生方、在校生のみなさんのご多幸を心より祈念し、答辞といたします。

令和八年三月十日 卒業生代表